

(三田)

兵庫・川除・藤ノ木遺跡
かわよけ ふじのき

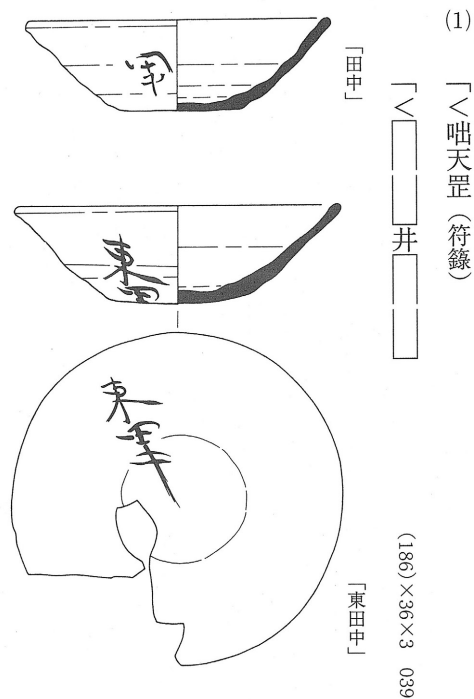
- 1 所在地 兵庫県三田市川除字藤ノ木・岸ノ上
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)五月～一九八八年一月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 吉田 昇・吉識雅仁・市橋重喜・山田清朝
 甲斐昭光・高瀬一嘉
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
 川除・藤ノ木遺跡は、三田盆地中央、武庫川によって形成された自然堤防上に立地する遺跡である。今回の調査は武庫川の河川改修事業に伴うもので、調査面積は約三六〇〇〇㎡である。

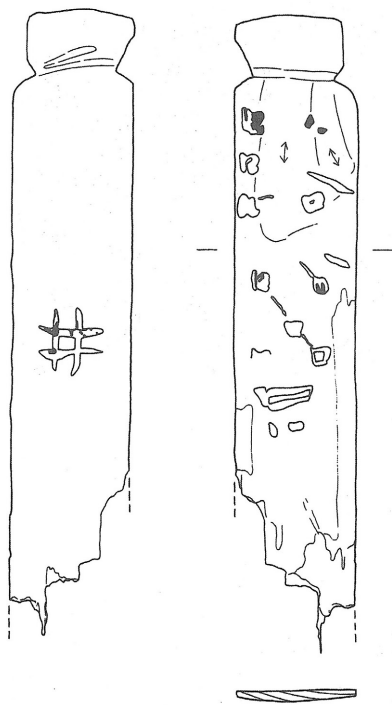
検出した遺構は、弥生時代後期から古墳時代前半まで、古墳時代後期、平安時代後期から鎌倉時代前半ま

での三時期が中心である。このうち最も新しい時期の遺構は、掘立柱建物・溝・井戸・墓などから構成される屋敷地をなし、計九区画検出されている。

今回報告する呪符木簡は、最も西側の屋敷地を構成する井戸SE一〇から出土した。SE一〇は木組みの井戸で、共伴遺物より二世紀中頃から後半までに位置付けられる。須恵器椀・瓦器椀・土師器皿などの土器類や、横槌・木錘・横櫛・箸・折敷・曲物などの木製品が共伴している。また、須恵器椀には「田中」「東田中」と墨書されたものが、各一点認められる。

8 木簡の积文・内容





頭部には両側から切り込みが入れられており、下部は欠損している。両面に墨書が認められる呪符木簡であるが、残存状況は良好ではなく、わずかに墨痕を確認できる程度である。材はヒノキである。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『川除・藤ノ木遺跡』（兵庫県文化財調査報告一

〇四、一九九二年）

（山田清朝）